

要求があればいつか実現する、組合で団結し、みんなで前進しよう

1 出勤簿や休暇簿の廃止がようやく実現

年度初めの慌ただしい時期ですが、高教組が永年要求していた出勤簿の廃止がこの4月からようやく実現しました。他県の教員や群馬県職員から「まだ押印しているんですか?」と言われ続けてきましたが、報われた思いです。今までご苦労いただいていた事務職員の皆さんには本当にお世話になりました。kinakoでの休暇や出張申請について、気になる点があれば高教組までお知らせください。

2 特休の完全消化が実現

4月1日から、休暇取得の単位が1日、あるいは時間単位で使用できる特別休暇については、残った日数の全てを使用する場合に、その残った日数、残った時間に1時間未満の端数がある時は、その残った日数の全てを利用できるように取り扱う（看護休暇、短期介護休暇、配偶者出産休暇、育児参加のための休暇、出生サポート休暇、妊娠障害休暇、防犯パトロールボランティア休暇が対象）こととなりました。昨年度の県職連交渉で、義務や高校も含めたすべての県職員に認められることになった権利ですが、これを実現させたのは高教組の組合員の強い要求があったからです。

3 入試アンケートではお世話になりました

高校入試の一本化・高校総体開会式の縮小や廃止・内示の早期化の3つは、群馬県教育委員会や高体連の判断で実現可能なことです。高教組は教育長との懇談や県教委要請行動・交渉や高体連役員との懇談などを繰り返し、この3点の実現を求めてきました。一本化された入試アンケートの結果は、概ね以下ようになりました。ご協力いただいた百数十名の皆さん、ありがとうございました。

①日程 ちょうどよい44.6% 早い29.5% 遅い10.7%

意見として、期末考査や成績処理と卒業式が重なり、きつかったという声が多数ありました。

②答案用紙のサイズ ちょうどよい77.7%

意見として、国語は横長の方がよい、採点を考えたスペースにするなどの声がありました。

③大問小問入力作業 必要22.3% 不要42.9% わからない23.2%

意見として、手間はかかるがミスは減る、入力時間が5倍に増えて苦行などの声がありました。

④採点・点検に要した時間 負担増47.3% 負担減11.6% わからない29.5%

意見として、前後期2回分より減った、教科によって差が大きすぎたなどの声がありました。

⑤今後のマークシート化 必要72.3% 不要8.9% わからない9.8% マーク記述併用1.8%

⑥今後のデジタル採点化 必要58.9% 不要8% わからない25.9%

⑦記述式の問題量 ちょうどよい52.7% 多い33.9%

意見として、国語や英語の長文解答は不要、社会の記述が多すぎるなどの声がありました。

他県ではマークやデジタルがすでに普及しており、群馬でも定期考査も含めたデジタル採点化が進む見通しです。学校や教科によっては19時・20時まで採点や点検にかかったケースもあることから、現場の教員の負担を減らし、採点ミスが起きない更なる改善を県教委に求めています。

⑧面接試験 必要61.7% 不要16.1% わからない16.1%

意見として、面接の点数を増やし内申を形骸化させてしまったなどの声がありました。

⑨記述回答より

- ・学力差が大きく、対応力のない受検生が増えている。
- ・定員割れしている学校では、面接と書類選考のみで十分である。差し替えも2回する必要なし。
- ・追検査の別枠合格はおかしい。本試験と一緒に合否判断すべきだ。なくてもよい。

仕方がないを変えていこう 当たり前が実現できる職場にしよう

右のQRコードから、ご意見・ご感想フォームにつながります。
みなさんのご意見やご感想をお寄せください。

